

## 平成26年度第2回川崎市青少年科学館協議会摘録

日 時 平成26年10月15日(水) 午前10～12時

会 場 かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館) 自然学習棟2階 学習室1

出席者(敬称略)

(1) 委員 (教育職員) 新井正明、(社会教育) 中山純史、(公募市民) 渡邊敬三、服部公俊  
(学識経験者) 山上明、勝山輝男、洞口俊博、木場英久、(家庭教育) 有北郁子

(2) 事務局 島田館長、國司担当課長、大泉、川島、弘田、小鍛冶(生田緑地運営共同事業体)、黒瀬

(3) 傍聴者 0人

凡例 発言者について

□□: 委員、○○: 事務局員(青少年科学館職員)

### 1 開会

事務局より、開会告知、傍聴者受入(定員10人)、記録(録音及び筆記)作成及び会議記録公開について周知

### 2 館長挨拶

以下、山上会長が議事進行

### 3 議事1 平成25年度事業評価について

□□ 会長 ネットワーク事業において、「学芸員実習」の項目を「(2) 調査研究・収集保存ネットワーク」から「(3) 学習支援ネットワーク」に移動させてはとの提案が木場委員からあったとの説明が事務局からあったが、意見等はあるか。

(異論なし)

□□ 会長 それではその旨変更することとする。

黒瀬 25年度分から変更することとする。

□□ 洞口 「学芸員実習」はどこから受け入れているのか。

國司 年度当初から館HPに募集要項を掲示し、川崎市出身の学生を対象に10名募集している。全国の大学から1校2名を限度に受け入れ、9月に実施している。

□□ 会長 協議会評価については、各委員の評価を取りまとめた上で昨年度と同様な考え方で行ったかどうか。

□□ 渡邊 協議会評価についてはこれでよいと思うが、館の自己評価がほとんど3で、数値目標にこだわりすぎではないかと思う。もう少し高い自己評価をして館としての主張をしてもよいと思う。

□□ 会長 自己評価における達成度について、事務局ではどう考えているのか。

黒瀬 様々な方々にご覧いただくものなので、目標を数値化できるものについてはその数値を基に判断し、なるべく客観的な評価になるよう心掛けている。

□□ 勝山 予算的な制約があるなかで目標達成することは難しいと思う。目標が達成されたという意味

で自己評価において3点が多くなることはある意味仕方ないのではないか。

**有北** 「達成度区分」に規定されている以上、自己評価においてどうしても3にせざるを得ない部分はわかるが、実績などコメントの書き方や見せ方を工夫してみてもどうか。同じ評価点であっても、印象はよくなると思う。

**会長** 25年度の事業評価についてはこの内容でよいか。

(異論なし)

**会長** それでは、シートから各委員名及び各委員評価を削除した最終版を事務局から提示してもらい、各委員で今一度確認を行うこととする。

また、評価作業について事務局から協議事項があるとのことだが。

**黒瀬** 今回の評価作業を行うなかで、木場委員から今後の評価作業のあり方についてご提案をいただいた。木場委員からご説明いただき、協議会における検討をお願いしたい。

**木場** (これまで各委員が全ての評価項目について評価作業を行ってきたことを踏まえ) 委員就任時点においては、館の状況改善を念頭に委員活動を行ってきたが、ある程度環境が整ってきた現在においては、より詳細かつ集中的な評価作業が必要と思う。協議会内で専門とする(得意とする)分野ごとにグループ分けした上で、テーマを絞って事業視察等を行いながら詳細な事業理解を図り、評価項目を分担して作業を行ってはどうかと思う。

**会長** 事業評価開始直後に同じことを検討してみたが、各委員の専門には偏りがあり、広い分野を均一にカバーしきれない。また、管理運営を専門としている人もいない。さらには、グループごとに各委員評価に加えてまとめ作業が必要になるなど、作業も煩雑になるものと想像された。

また、協議会委員は全体に目を通す必要があるものと思うので、これまでの評価方法を継続しながら、まとめ作業において工夫すべきではないか。

**渡邊** まとめ作業については、外部評価において評価者が行うべきものと思うが、当該評価は実際のところ第三者ではない協議会が担っており、それほど厳密に考えなくてもよいのではないか。基本計画・年次計画と実績を比較しながら、よいものは評価し駄目なものはダメという評価姿勢でよいと考える。

**木場** 分担が難しいということは理解した。

**渡邊** コメントも多少無理しても記入するようにしたほうがよいと思う。得意とする委員の少ない項目についても、各委員のコメントが集まることにより、最終的にはバランスのとれた評価になると思う。

**副会長** 当該評価は税金を無駄遣いしていないか否かのリトマス試験紙と考えればよいのであって、わからない項目も含めて一般の常識で判断すればよいのではないか。定量的な評価になるとシビアになるが、ある程度定性的な評価として作業していけばよいのではないか。

**有北** 自分は地域連携を得意分野としており評価も重点的に行っているが、それ以外の項目については素人の視点から作業を行っており、またそれでよいと考えている。

また、館職員からの実績や自己評価等の説明の際に、重点的に取り組んでいるところ、苦勞しているところについて、しっかりと説明するようにしてほしい。

**会長** 博物館評価も始まったばかりであり、現時点では、計画に沿った取組が行われているか否かチェックすることを主眼に作業することとしたい。

#### 4 議事2 平成26年度事業経過報告について

会長の説明依頼に基づき、各担当から経過説明

**洞口** プラネタリウムの観覧者数で、4・5月分が少ないが、学習投影を行っていないことによるのか。

**國司** 4月はそうである。学習投影を行っていない。5月は例年どおりと考えている。

**洞口** 9月も少ないようだが。夏休み直後だからなのだろうか。

**國司** そう思う。また天候も関係したのではないか。

**小鍛治** 前年度比について言えば、9月の休日数が1日少なくなっており、このことを考慮すると大きな変化はないものと思う。

**有北** 天文サポーター研修会は毎回23名が参加していたのか。それとも初めの登録が23名だったということか。

**國司** 参加登録者が23名だった。

**有北** であれば登録者●名という形で示してほしい。

**副会長** ホームページのヒット数の記載がないがどれくらいあるのか。東芝未来科学館では月25万ページビュー、また来館者のアンケート調査で、何の媒体を見て来館したかの調査では、来館者の13%がHPを見て来館となっており、以前よりも誘引として大きくなっている。

**黒瀬** 手持ちのデータがないので後日報告する。

(事務局補足:平成26年度4月～9月においては、合計178,224件のアクセスがありました)

**副会長** 入館者数が前年度比で6%程度減少しているようだが、テーマパークでは何も改善の取組をしないと10年間で来場者が40%減少するという論文があり、年率にすると5%程度減少となるので、数値的には当てはまるようである。

**渡邊** 主要な講座では参加者からアンケート等をとっているのか。

**國司** ほぼ全ての講座・教室で実施している。

**渡邊** 昨年視察した事業のボランティアから、アンケート結果を館スタッフと共有できていない話を聞いて心配していたのだが、評価の目安にもなるので大切にしてほしい。

**國司** ご指摘に従い、アンケート結果の把握、事業への反映に努めているところである。

**服部** 館の天文サポーターや実験工房の実施ボランティアとして携わっているが、アンケート結果については次の事業実施に活かすようにしている。

入館者数についてであるが、先日、市内の梨狩りツアーで、その参加者25名(すべて川崎市民)に尋ねてみたところ、生田緑地の日本民家園を訪れた人は9割近くいたが、科学館のプラネタリウムを訪れたのは1人だけだった。たまたまかもしれないが、50代以上の年齢層の方々にはあまり知られていないのではないかと感じた。これらの人々を取り込む広報活動を考えるとよいと思う。

**館長** 広報活動の重要性については従来から認識しているところである。外部からの評価を得るためにも、集客は重要な要素と認識しており、また、一方で地域の科学博物館としての役割も忘れずに取組を進めたい。若年層の集客に向けては、ツイッターやフェイスブックなどの活用を図っているが、高齢者層へのアピール方法については検討中であり、ぜひ皆様方のお知恵を拝借したい。

**新井** 学校でも評価作業を行っており、年度末評価だけでなく中間評価を実施して、後期事業や次年度事業に反映をさせているところである。科学館でも経過報告の機会を活かすなどにより

考慮してみてもどうか。また、前期事業の総括を行う中で、どこを重点的に捉えているのか見せてもらえるとよいと思う。

**有北** SNSはだれが担っているのか。

**館長** 指定管理者と市職員が協力しながら行っている。

**有北** 「いいね」の獲得数が少ないように思う。技術的な工夫が必要であり、書き方次第でもかなり変わってくる。若い人の知恵などを導入しながら工夫してほしい。

**副会長** 東芝未来科学館では回答対応等を考慮し、SNSは導入していない。

**館長** 当館では現在は発信するのみとし、回答対応を行っていない。

**勝山** 入館者数はどのようにカウントしているのか。また、県立生命の星・地球科学館と比較し、入館者数に比較的月毎の変動が少ないところが興味深い。

**館長** 入館者数は入口のセンサーによりカウントしている。また月毎の変動が少ないのは、プラネタリウム投影の毎日実施や、緑地の中で中央にもあるので休憩等に利用する方が多いことが関係しているのではないか。

**渡邊** 資料のまとめ方を再検討してほしい。一覧表により各取組名・参加者数等全体像を示すようなものを示してほしい。

**勝山** 県立生命の星・地球科学館においても、入館者数以外で館の活動が見えるような統計データとして、資料同定対応件数などを加えるようにしている。

**会長** 調査研究や収集保存についても、口頭のみ説明でなく、できるだけ具体的な資料を提示して説明するようにしてほしい。

## 5 その他

### (1) 次回協議会について

**黒瀬** 第3回協議会は事業視察であるが、近日中に皆様方に日程を提示する予定である。また、25年度事業評価については年内の早い時期に確定することとしたい。

### (2) その他

なし

## 6 閉会

会長より閉会告知